

## 第二 二 問

次の文章は、『萬法典』ばんほふてん第四十三段「二女官の接吻したる事」の一節である。これを読んで、後の設問に答えよ。

いづれの御時にか、幻想郷に博麗宮ありて、いみじうらうたげなる靈夢といふ巫女おはしけり。茶飲みつつ、(ア)あなや、今日もをかしの天氣やとひとりごち給ひて縁にゐければ、神祇官の有栖といふ人、陰陽師の魔理沙といひけるを率て、徒歩より詣で給ひけり。有栖きこして、(イ)またも怠り給ひけるかと問へば、休みてなむとぞ。今日休まむとすれば、然らば明日はと尋ね給ふに、魔理沙、(ウ)宮の果つる日にやあらむとぞのたまひて笑ひ給ひける。怒り給ふをみなほころびて笑ひぬれば、(エ)いみじう親しきかなとこそあはれに思ひ給ひぬれ。

有栖の「靈夢が為に菓子持て参りては」とのたまふに、あはれ食はばやとて寄りけり。魔理沙喜びて「(オ)なほ有栖の作り給ふ菓子の甘きことかな。地しものにて付かず、からりと美し。萬法典の粉なむ使ひ給ひぬるか」とのたまひぬれば、靈夢もいみじうをかしく思ひけるとぞ。(カ)ただ食ひに食ふ音のしければ、果てには鬼もゆかしとてあらはれ給へり。

〔注〕 ○菓子——ブラウニー。

○萬法典の粉——バンホーテンのココアの粉。

## 設問

(一) 傍線部ア・イ・ウ・オ・カを正確に現代語訳せよ。

(二) 「いみじう親しきかなとこそあはれに思ひ給ひぬれ」(傍線部エ)とあるが、「あはれに思」ったのは誰か。また、誰と誰が「いみじう親し」と発言しているのか記せ。

(三) この文から、魔理沙はどのような人物であると読み取れるか、説明せよ。

どの天皇の時代であつただろうか。幻想郷の博麗神社に、たいそうかわいらしい霊夢という巫女がいらつしやつた。茶を飲みながら、「ぶはー、今日もいい天気」と独り言をなさつて、縁側にお座りになっていると、神祇官の有栖という人が、陰陽師で、魔理沙という人を連れて徒歩で参詣なさつた。(有栖が、霊夢の独り言をお聞きになつて)「あ、霊夢。またサボリ？」とお聞きになつたところ、「休憩中よ」とおつしやつた。(有栖が)「じゃあ、明日は？」とお聞きになると、魔理沙が「神社閉店の日」とおつしやつてお笑いになつた。そうして霊夢が怒るのを皆で笑つていと、(霊夢も)「あゝ、アンタたち、ホントに仲いいわね」と大変しみじみと思いなさつた。

有栖が「今日は霊夢のために、お土産を持つて来たのよ」とおつしやると、皆、これを食べたいと有栖に近寄つた。魔理沙は喜んで「やつぱり有栖が作るブラウニーは美味しいな。生地がしつとりしていて、それでいてベタつかないスツキリした甘さだ。ココアはバンホーテンの物を使用したのかな？」とおつしやつたので、霊夢も「ホントに美味しいわね」とたいそう趣をお感じになられた。ただひたすらに(ブラウニーを)食べる音がしたので、ついには鬼もブラウニーを食べたいと姿をお現しになつたということだ。